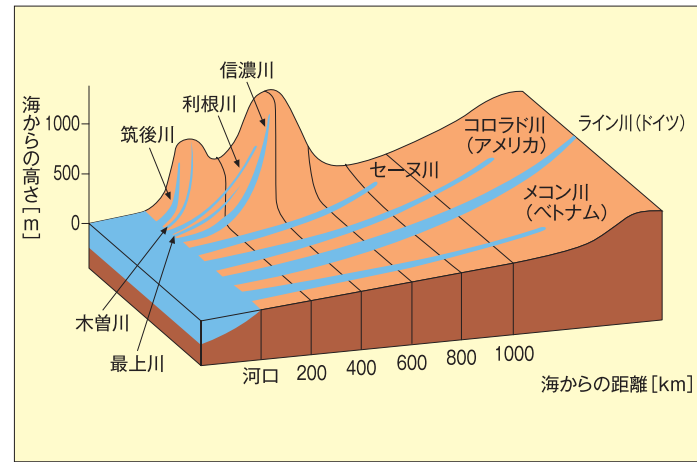


農地・農業水利施設の発展により地域も発展してきました

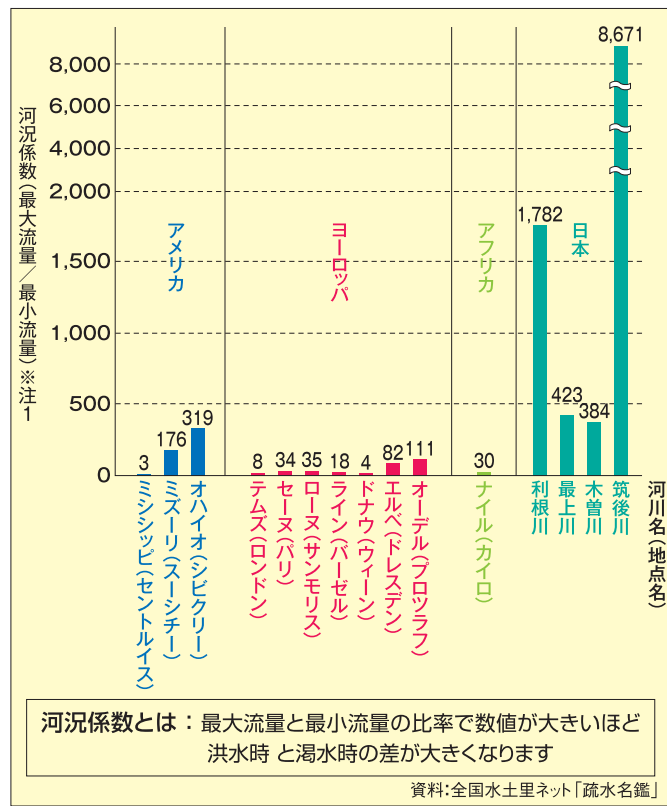
稲作の発展に必要な農業水利施設

日本の河川は欧米に比べて極めて急峻です。それに加えて、アジアモンスーン気候により、集中豪雨が発生したり、まったく雨の降らない時期が何ヶ月も続いたりするため、河川の流量の変動が極めて大きくなっています。そのため、水を貯留しながら徐々に使用する水稻を主体とした農業に河川水を利用するためには、農業水利施設の造成が必要不可欠でした。

主要な河川の勾配



河況係数



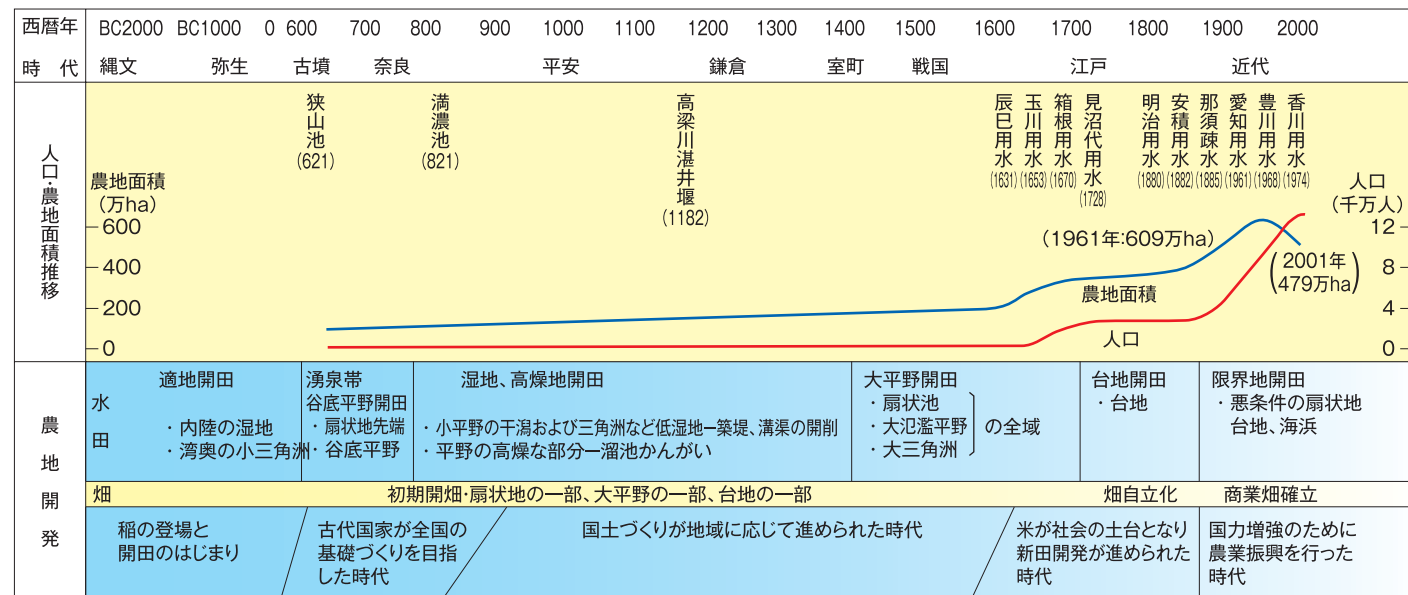
農業水利施設には、さまざまな機能があります

農業水利施設は、水を貯えるダムやため池、川の水を堰上げて取水する堰(頭首工)、水を運ぶ用水路、水を分ける分水工、排水を集めて流す排水路から成っています。古くから建設されてきたため池や用水路は、農業生産に役立つだけでなく、水田などの農地と一体的に機能して、水源かん養、親水空間の形成、貯留による洪水防止・気候緩和などのさまざまな効果を発揮しています。



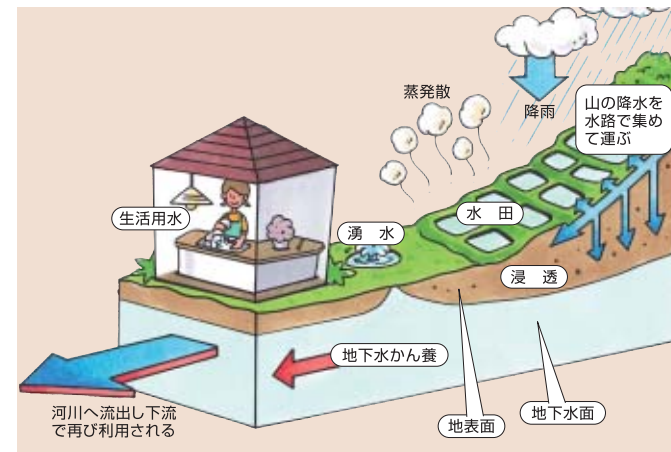
農業水利施設の発展とともに人口も増加してきました

「瑞穂の国」とも呼ばれるわが国は、稲作の発展により支えられてきたともいえます。食糧増産のためには稲作の発展が必要でした。そのため、水を確保し有効利用するために農業水利施設が整備されました。農業水利施設は、自然のままで水の得られる場所に限られていた稲作をため池や河川からの取水施設、水路などにより水田面積を拡大し食糧生産に永く貢献しています。



資料：農業土木歴史研究会「大地への刻印」、1988年(公共事業通信社)をもとに作成

水源かん養機能

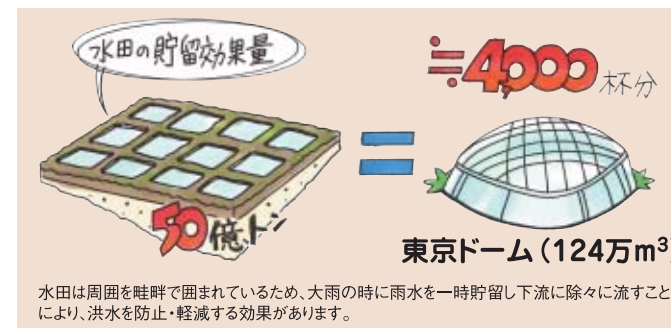


資料：農林水産省資料をもとに作成

親水空間の形成



貯留による洪水防止機能



気候緩和機能

